

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.91

2007/06/23

山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会



過去最大人数での復元作業行われる

作業終了後広々とした湿原での成果をたたえつつ (07/06/16)



作業前の決起集会 (07/06/16)



刈り取ったものを集積場へバケツリレー (07/06/16)

6月16日の保全作業は、過去最大の人数で実施されました。恒例となった「淡海森林クラブ」の皆さんに加え「ローソン緑の基金」の皆さん、滋賀県・西浅井町の職員の皆さんと本会会員と40名を超える大部隊でした。北部湿原も今でこそ灌木帯となっていますが20年前には池塘も点在し、多くの草本

類やトンボをはじめとする昆虫も多く見られました。そんな環境に戻したいというのが兼ねてからの目標です。一昨年以来復元作業をしてきた部分では、トキソウやクサレダマが分布を広げています。今年の成果も間違いなく来春には確認できるはず。日差しが一段と強まった中作業にご参加頂いたみなさんお疲れ様でした。

5月末から6月初旬は、森の衣装直しの期間だったが、中旬に入りホウノキ、ヤマボウシ、エゴノキ等の花付きがことのほか多くなり、続いてコアジサイ、ササユリ、トキソウ、ギンリョウソウ、ノハナショウブと花々が咲き乱れ

来訪者数が一気に増えました。昨年まではウィークデ이의訪問者は限られていましたが、今年は曜日に関係なく来訪者が絶えません。受入体制の増強が必要ですが、財政・両面から困難な課題です。



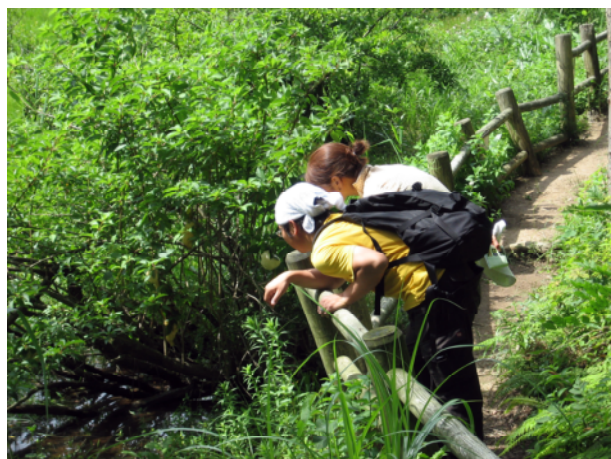
咲き誇るササユリ (07/06/16)

「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」

<http://www.digitalsolution.co.jp/nature/yamakado/>



観察会参加者へのガイダンス (07/06/23)



モリアオガエルに見入るカップル (07/06/23)



見応えのある付属湿地のノハナショウブ



大発生のギンリョウソウ (07/06/13)

トキソウが咲きノハナショウブも大群落の開花となりました。さらに5月以降トンボの羽化が連日続き、今ではトンボの楽園化しています。特にハッチョウトンボが増加し過密状態ではと会員が話すほどになってきました。彼らにとって生息環境が整ったということでしょう。



オオキンケイギクを除去する会員 (07/06/23)

しかし良いことづくめではありません。毎年多くの方々にご苦労頂いているセイタカアワダチソウ・オオキンケイギク等の外来雑草の除去がやっぱり大問題です。時間があれば、寸暇を惜しんで会員が除去作業を実施していますが、絶滅に迫りやるにはまだまだという感じです。また観察コースも来訪者の増加に伴って荒れが目立つ部分もあります。これまた補修を繰り返さねばなりません。これらの保全活動は、際限がありませんが、万歳することなく実施を続けたいものです。



荒れる観察コース (07/06/22)



水路の水位が湿原面に近づいた状態 (07/06/22)

4月以降湿原の水不足状態が続いていましたが、最近になって降雨量が増え日によっては、湿原全域が冠水状態となったこともあります。このような状態になると、排水路が1つですから、水路と湿原が同レベルとなり、一気に大量の水が流下するということになり、場所によっては水路が変わってしまうという問題も発生しています。これまた防備作業が必要になります。

人気のササユリは、蕾を付けた約半数が鹿の食害に遭うということになりましたが、湿原のコース沿いは被害が少なく、初めて4輪の花を付けるものもありました。林内のギンリョウソウは、昨年は発生がごく少量でしたが、今年は大発生をしました。

付属湿地

でも今年は、